

日時 2016年(平成28年)6月8日(水)

午前10時から

場所 市庁舎5階 第7会議室

議題

- (1) 今年度の懇話会体制について
- (2) これまでの当計画の進捗状況及び今年度の方針について
- (3) その他

意見概要

- 互いに支え合う地域づくり（お互いさまサポーター活動など）について
 - ・お互いさまサポーターの活動について様々な課題が挙がってきている。（お互いさま活動の原点（意識）の薄れ、参加メンバーの固定化、お互いさま活動やサロン活動の啓発方法、活動に参加したくないという人への対応等）活動している内容を周知することが非常に重要である。また、懇話会で共有した他地域の情報をフィードバックすることも有用ではないか。
 - ・現在は高齢者の支援に焦点が当てられているが、今後は障がい者、貧困状態の方など対象者の範囲を広げて考えなければならなくなるとも考えられる。地域の方と専門機関の方々が情報共有することが第一歩ではないか。
 - ・10年後、団塊の世代が75歳になり益々高齢者が増加する中、行政や予算云々ではなく、元気な高齢者が身近な要支援・要介護者を看るということが当然のことであるという意識を啓発していくことが非常に重要と考えている。
 - ・今後の高齢者の増加に対応するために、民生委員の活動が大きなカギになると考えている。自治会との協力も重要であり、さらには協力員制度を整備することも必要ではないか。そして協力員の役割を担うのは、お互いさまサポーターといえるのではないか。
 - ・お互いさまサポーターは、東日本大震災時に、近隣の人間関係が希薄であるということに危機感をもった住民が、自治会などの形式にとらわれることなく、自発的に、自由な形で見守っていこうという趣旨で始まった。したがって、地域によっては、何か形式的に役割を与えられると拒絶反応を示すサポーターもいるだろう。
 - ・今後、民生委員の役割は非常に重要と考えている。しかし、民生委員だけでは限界があるので、自治会と並列で連携していけば、良い方向にいくのではないか。
 - ・サポーターはあくまでも民生委員をサポートする形で活動を行っている。
 - ・最近では、サロンが無かった時代と比べて、情報量が全然違う。民生委員がサロンに参

加することで、気になる人の情報等が入ってくるようになった。また、一例としてサポーターが障がいの父子世帯を毎日順番で見守る等、素晴らしい事例もある。一方で、情報が入ってくることによって、民生委員は多岐にわたる業務にあたらなければならなくなった。サポーターの方等に助けていただきながらこなしている。

●互いに支え合う人づくりについて

- ・福祉教育の実践には、学校との綿密なスケジュールやメニューの打ち合わせが必要。点ではなく線でつながるような長い取り組みが求められるが、教育サイドの協力が無いと、点での取り組みで終わってしまう。また、次につながる“何か”というものが大事なのではないか。子どもが学びの機会を得ることによって、福祉について知ってもらい、ボランティア活動のきっかけになるとともに、すぐには直結しないが、将来的に選択肢のひとつとして福祉分野への就労に繋がれば良い。
- ・福祉教育は逗子市社協がこれまでも力を入れて行ってきた分野。未だ発信という部分で広がりを持ち得ていないように見受けられるので、何を行ってきたのかということをきちんと伝えていくことが重要。また、福祉教育は教育現場だけでなく、地域社会全体で行う必要がある。全員が同じ気持ちをもって行うことが重要。今自分の地域で何が問題で、何が必要とされているのかということ、皆さんだけでなく、ご家族や生徒とも、視点は違うが同じ気持ちでとらえることが必要。そして関心を持つ“目”を切れ目なく色々な場面で作っていくことが重要。サポーターの事業やサロンにも学生や親も参加し、どういうことを行っているのかということを広めることが必要。基盤をつくっていくという意味で、力を入れて行っていただきたい。

●互いに支え合う環境づくりについて

- ・地域ケア会議は、本来個々の人々の持つ課題を集めていって、その地域の問題は何かを吸い上げる場ではなかったかなと思う。個人的な印象では、地域のそもそもの問題、特に地域のハードの問題が議題になることが多かったように思う（バスを一本通せば生活が改善される、等）。一人ひとりの方々の意見が言える場になれば良いと思う。
- ・障がいのある方の相談支援については、多種多様な相談内容が日々寄せられており、障がいのある方の関係機関のみにとどまらないというのが最近の傾向。その人から見える社会の見え方のずれが、お互いの誤解を生み、齟齬を生み、人間との関係が途絶えていくのではないか。その人にとって社会がどのように見えているのか、ということに目を向けていただくことで、理解の仕方が変わるのではないか。

●全体の総括として

- ・本日、地域の方から専門機関の方まで参加されているが、地域の方がどのような取り組みを行っているのか、一方で専門機関の方が行っている業務を地域の中でどのように伝える

ていくかということ、この懇話会場で共有できたら良いのではないか。ここで議論されていることは、全国的な課題になっている。専門機関だけでは対応できない課題を、地域の方も含めてどのように解決していくのか。どのような取組みを行い、その結果どのようなになったのかということ、皆で共有していくことが重要。それぞれの活動を共有することにより、風通しも良くなり、これから新しいものを創っていく際にも一助となるのではないか。